福祉区番号

在宅医療に関するアンケート調査へのご協力について

岡山市保健福祉局　新病院・保健福祉政策推進課
岡山市保健福祉局　保健所保健課

日ごろより岡山市の保健・医療・福祉行政にご理解・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

皆様すでにご存知のとおり、わが国では急速に高齢化が進んでおり、岡山市においても高齢化率は、2010 年（平成 22 年）現在、21.3％と超高齢社会に突入しており、2025 年（平成 37 年）には推計で 27.3％となる見込みです。

こうした中、岡山市では、在宅医療の推進を、今後の医療・高齢者施策にとって特に重要な課題と位置づけ、高齢者をはじめとする市民が、生活の質を保ちながら、住みなれた地域でいきいきと自分らしく暮らすための、在宅医療支援体制の整備を進めていくこととしています。

そこで、岡山市内の診療所における在宅医療の提供状況、在宅医療・介護機関との連携状況をお伺いし、今後増えると予想される在宅医療の需要に対応すべく、在宅医療体制の整備やネットワークづくりの基礎資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 24 年 11 月

＜個人情報の取り扱いについて＞

アンケートにご回答いただくにあたり、ご回答者の住所・氏名などの個人を識別できる情報（個人情報）を書く必要はございません。回答内容は統計的に処理しますので、アンケートに記載された内容がそのまま公開されることはなく、調査結果は上記目的以外に使用することはありません。

＜調査票のご記入にあたって＞

■　調査対象は、岡山市内の**病院の地域医療連携室（もしくは地域連携担当者）の管理者の方**です。
■　回答は☐を✔でチェックしてください。記入部分には記載をお願いします。
■　ご記入いただいた調査票は、**12月14日（金）までに**、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストにご投函ください。
　切手は不要です。
■　この調査のお問い合わせは、下記までお願いいたします。

岡山市保健福祉局　新病院・保健福祉政策推進課
（担当：和田・大谷・徳田）　電話　(086)803-1637
FAX　(086)803-1776

在宅医療に関する調査　　～地域連携室～

※この調査票は、岡山市内全病院を対象としておりますので、調査項目の内容によっては該当しない場合があることと思います。その場合には回答の必要はありません。

《属性等基本情報》

1. 医療機関の開設者を次の中から選んでください。

☐①　公的医療機関　　☐②　医療法人・個人　　☐③　その他

2. 病床数はいくつですか。該当するところの☐を✔でチェックしてください。

☐①　20～99床　　☐②　100～299床　　☐③　300～499床　　☐④　500床～

3. 地域医療連携室等（地域医療の窓口となる部署）の設置がありますか。

☐①　設置している　　☐②　設置していないが担当者がいる

4. 地域医療連携業務を担当している職員の職種と人数、専任・兼任の別について下表に記入してください。

（＊注：兼任の人数については、兼任者の「全体の業務量」における「地域医療連携業務量」の割合で換算し、ご記入ください）

		医師	保健師	看護師	医療ソーシャルワーカー	精神保健福祉士	介護支援専門員	医療事務	その他
スタッフ数	専任	人	人	人	人	人	人	人	人
	兼任	人	人	人	人	人	人	人	人
	計	人	人	人	人	人	人	人	人

《在宅に関する評価》

5. 在宅医療に対するイメージについて、該当するところの□を✔でチェックしてください。

院内連携	1. 入院初期に病棟看護師と医療ソーシャルワーカーの連携は必要	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	2. 地域医療連携室(医療ソーシャルワーカー)と病棟との連携はうまくいっている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	3. 病棟医師の在宅移行への意識は高まっている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	4. 病棟看護師の在宅移行への意識は高まっている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	5. 院内スタッフを教育して在宅の意識を拡げていくのが地域医療連携室(医療ソーシャルワーカー)の役割だと思う	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
退院支援	6. 本来なら退院支援を必要とする患者であっても、退院支援がもれ落ちている事例がある	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	7. 退院支援の要否に関わる医療従事者のアセスメントの質を向上させる必要がある	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	8. 退院に向けた院内のルールや仕組み(退院支援のマニュアル等)があり、退院支援の一連の流れがある	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	9. 在宅と施設入所の両方が退院先としての可能性があるとき、できるだけ在宅の方の可能性を探りたい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	10. 医療ソーシャルワーカーとして自分を振り返ってみたとき、介護保険制度を熟知できていないと感じることがある	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	11. 病棟スタッフの介護保険制度の認識が低いと、在宅支援に絡むトラブルが増える	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	12. 連携がとれる病院が限られているため、退院調整に非常に苦労している	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	13. 介護系の事業者を知らないため退院調整に非常に苦労している	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
イメージ	14. 医療依存度が高い患者の在宅は無理	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	15. 在宅で緩和ケアや看取りの対応は困難	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	16. 在宅医療では十分な医療が提供できない	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
認知	17. 介護資源や家族の協力があれば在宅へ帰れる人を除いても、圧倒的に中間施設(老健や慢性期病院)は不足している	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	18. 独居高齢者や老々介護などでは、介護資源が充実すれば在宅医療・介護は可能	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	19. 地域の在宅医療のニーズが増えている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
情報	20. 遠隔地域の医療・介護資源情報の把握は難しい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	21. 各病院が把握している地域医療・介護資源情報を共有できるといい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	22. 他機関との情報共有に多大な時間と手間がかかっている	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	23. 情報共有ソフト等を使ったITツールが活用できたらよい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	24. 連携パスは今後普及していく	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
対策	25. 地域医療連携室の人員増などの強化が必要	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	26. 患者・家族には、在宅でできることをもう少し知っておいてほしい	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
	27. 在宅移行する患者にかかりつけ医やケアマネジャーがいないとき、その調整をしてくれる機関があったら大変助かる	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない
今後	28. 今後在宅医療は推進すべき	□① そう思う	□② 少しそう思う	□③ あまり思わない	□④ 思わない

《在宅の実施状況》

6. この1年間で医療ソーシャルワーカーが退院支援で関わったケースの数はどのくらいですか。

・医療ソーシャルワーカー1人あたり　約＿＿＿＿＿人

7. 医療ソーシャルワーカーが退院支援で関わったケース数を母数として、下記の退院先に移行した患者の割合はどのくらいでしたか。

・病院　約＿＿＿＿割　　・有床診療所　約＿＿＿＿割
・入所施設　約＿＿＿＿割　　・在宅　約＿＿＿＿割
・その他　約＿＿＿＿割

8. 貴病院において退院支援等を行う必要性を判断する患者の把握方法についてお尋ねします。該当するところの□を✔でチェックしてください。

1.　チームカンファレンスにて把握	□①　はい	□②　いいえ
2.　個人面談にて把握	□①　はい	□②　いいえ
3.　スクリーニング表にて把握	□①　はい	□②　いいえ
4.　その他（　　　　　　　　　）	□①　はい	□②　いいえ

9. 貴病院において、退院支援のしくみを検討・充実させる委員会がありますか。

□①　ある　　□②　現在はないが設置を検討中　　□③　ない

10. 医療ソーシャルワーカーが退院支援で関わったケースのうち、（ケアマネジャーの関わりが必要であるにもかかわらず）担当ケアマネジャーがいない患者の割合は、この一年間でどのくらいありましたか。

・携わった患者のうち　約＿＿＿割程度

11. 医療ソーシャルワーカーが退院支援で関わったケースのうち、患者・家族がケアマネジャーを選定できないケースは、この一年間でどのくらいありましたか。

・携わった患者のうち　約＿＿＿割程度

12. 医療ソーシャルワーカーが退院支援で関わったケースのうち、かかりつけ医がいない患者の割合は、この一年間でどのくらいでしたか。

・携わった患者のうち　約＿＿＿割程度

13. 医療ソーシャルワーカーが退院支援で関わったケースのうち、患者・家族で在宅医を選定できないケースが、この一年間でどのくらいありましたか。

・携わった患者のうち　約＿＿＿割程度

14. 在宅に移行する患者に主治医がいないとき、どのような対応をされていますか。該当するところの□を✔でチェックしてください。

□①　本人・家族に探してもらい、医療ソーシャルワーカーが探すことはない
□②　基本的には本人・家族に探してもらうが、困難な場合は病院医師が探す
□③　基本的には本人・家族に探してもらうが、困難な場合は医療ソーシャルワーカーが探す
□④　基本的には本人・家族に探してもらうが、困難な場合はケアマネジャーに依頼する
□⑤　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

15. 以下のような要因で、在宅移行が困難であったケースを、この一年間でおよそ何例くらい経験していますか。該当するところの□を✔でチェックしてください。

1.　本人は在宅を望んでいるが、家族は望んでいなかった	□①　0人	□②　1～4人	□③　5～9人	□④　10人以上
2.　在宅のマンパワーが揃わなかった	□①　0人	□②　1～4人	□③　5～9人	□④　10人以上
3.　在宅医療を提供してくれる医師の確保ができなかった	□①　0人	□②　1～4人	□③　5～9人	□④　10人以上
4.　在宅医療の訪問看護が確保できなかった	□①　0人	□②　1～4人	□③　5～9人	□④　10人以上
5.　在宅介護サービスを十分そろえられなかった	□①　0人	□②　1～4人	□③　5～9人	□④　10人以上
6.　住環境が整わなかった（例：バリアフリー化が困難）	□①　0人	□②　1～4人	□③　5～9人	□④　10人以上
7.　適切なケアマネジメントができなかった	□①　0人	□②　1～4人	□③　5～9人	□④　10人以上

16. 退院時カンファレンスの各専門職の参加状況について、該当するところの□を✔でチェックしてください。

院内参加者	1.　主治医	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない
	2.　看護師	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない
	3.　MSW	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない
	4.　その他（　　　）	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない
院外参加者	5.　在宅医	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない
	6.　訪問看護師	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない
	7.　ケアマネジャー	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない
	8.　その他（　　　）	□①　必ず参加している	□②　可能な範囲で参加している	□③　参加していない

《連携・ネットワーク》

17. 在宅医療で悩んだとき、気軽に相談できる相談先がありますか。該当するところの□を✔でチェックしてください。

□① 気楽に相談できる相談先がある　□② いざとなれば相談できる相談先がある　□③ 余程でないと相談できない
□④ 相談先がない　□⑤ 相談はしない

18. 介護サービス、在宅関連診療保険点数、福祉サービスなどについて、同一法人以外の専門的な相談ができる(意思疎通の図りやすい・信頼できる)連携先がどのくらいありますか。該当するところの□を✔でチェックしてください。

1. 医師(診療所)	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
2. 医師(病院)	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
3. 歯科医師	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
4. 薬剤師	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
5. 看護師	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
6. 理学療法士・作業療法士	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
7. 栄養士	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
8. ケアマネジャー	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
9. 医療ソーシャルワーカー	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上
10. その他(　　　　　　)	□① 0人	□② 1人	□③ 2人	□④ 3～4人	□⑤ 5人以上

19. 地域医療連携室のネットワーク連絡会等に参加していますか。該当するところの□を✔でチェックしてください。(＊複数回答可)

□① 岡山地域医療連携実務者の会　□② 旭東地域連携実務者ネットワーク
□③ その他(　　　　　　　　　　)　□④ 参加していない

20. 以下の機関と連携をさらに強化するとき、困難を感じますか。該当するところの□を✔でチェックしてください。

1. 病院	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
2. 一般診療所	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
3. 在宅療養支援診療所	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
4. 介護老人保健施設	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
5. 特別養護老人ホーム	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
6. グループホーム	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
7. 訪問看護ステーション	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
8. 地域包括支援センター	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
9. 居宅介護支援事業所	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
10. 市町村保健部門	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
11. 保健所	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
12. 市町村福祉部門	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
13. 福祉事務所	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
14. 歯科診療所	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない
15. その他(　　　　　)	□① とても感じる	□② 感じる	□③ あまり感じない	□④ 感じない

《情報》

21. 退院支援や多職種連携についてどんな情報が必要ですか。該当するところの□を✔でチェックしてください。(＊複数回答可)

□① 地域の在宅をしてくれる診療所(疾病・病態別受入れ状況、新規受入れの可否、往診の有無など)
□② 内科以外でも往診してくれる診療所
□③ 診療所の支援をしてくれる病院
□④ 有床診療所情報
□⑤ 重症者のデイサービスの受け入れ先
□⑥ 寝たきりでも入れる入浴設備がある施設
□⑦ 吸引等の医療処置が可能なデイサービス
□⑧ デイサービスの利用者年齢層
□⑨ 介護保険や障害者福祉サービスの対象外の人でも利用できるサービス・事業
□⑩ タイムリーに更新されている地域医療・介護資源情報
□⑪ 病院や施設の空床情報
□⑫ 研修情報
□⑬ その他(　　　　　　　　　　)

○ 在宅医療について日ごろ気を付けていることや今後の課題等意見をご記入ください。

お手数ですが、記入漏れがないか再度ご確認の上、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、**12月14日(金)までに**お近くのポストに投函してください。ご協力ありがとうございました。